

江源氏鑑

十三



210  
72  
Vol 13

部 107  
 年 122  
 月 13  
 在 中 學 部 附 屬 館



寄 贈  
 明治廿貳年以降本校卒業生三百十八名  
 大正 七 年 六 月 八 日

長利氏ノ系也 十二巻 ハ一

江源武鑑卷第十二

八 永禄九 年

正月小

朔日天氣快晴觀音城出仕ノ次第例年ノコ  
 トシ屋形旗頭等ヲ引率シテ辰剋矢嶋ノ御  
 所ニ出仕ナリ

二日天氣晴屋形ノ一族中矢嶋御所出仕ア  
 リヒトハニ京家ノ將軍ノ御礼ニ不異正月諸  
 事作法等ノ事ハ細川兵部大輔藤孝兼テ其



義式等ヲタ、サル雖然前將軍乃松院殿ノ時  
二日ハ御松ハヤシノ御能アリシヲ藤孝サシ  
ヅトシテ不吉ノ例ナリトテ三日ニ成ル  
三日江陽旗頭等ヲ召連テ屋形矢嶋ニ出仕  
シテ次第ヲ定メ將軍家ニ御礼アリ  
七日將軍家觀音城へ移玉ヲ將軍イマタ御  
髮不長シテ御半俗ノテイナリ

八日將軍矢嶋へ御歸城

十五日將軍家江陽ノ八幡宮へ社參屋形ハ

同日午剋ニ社參旗頭等不殘供奉ス  
十六日屋形例年ノコトク佐々木御社社參  
旗頭等同ク社參ス箕作ノ兼禎父子同日酉  
剋ニ社參是ハ屋形ノ不和ニ依テ也ト云  
廿六日三好左京大夫義次ヒソカニ百騎計  
ノ勢ヲ引率シテ江州ニ來テ矢嶋ノ御所ニ  
入テ合戰ノ計畧ヲ回ス今日夜ニ入テ義次  
觀音城ニ來テ屋形ト密談ス其事ヲ不知將  
軍上洛ノ評定也ト衆説アリ

軍上二月大

四日三好義次河内へカヘラル

十五日日野大納言今日京ヲ出テ觀音城ニ

來ル語テ曰三好笑岩入道太子ニ御位ヲユ

ツリ玉フヘキトノ事ヲ傳奏ノ面々マテ度々

申上ルノ所諸卿評義有テ此義相調候雖然

皇家万事近年ハ別テ御不自由ノテイニナリ

三好モ天下ヲシカン末世ノタメト思ヘ共御

國讓ノ雜用等ヲ調事難シ然トモ此事不可

然ト云人モナケレハ今月十二日御即位ヲ

三好家ヨリヲシテ行ヒケルカラク書ニ曰

事タラヌ子ヤシモテユシ御即位ヲ大

ヲシテヲコノウ君カ世モ哉

御即位調兼テヤウヤククワニキ計ニテ有ハ

又ラク書ニ

イニシヘノサハホトモナキソクイカナ

右ノ通日野大納言ノ御物語ナリ矢嶋ノ御

所聞玉ヒテ笑ヒ玉フトナリ此程江州植村久

南ホ十云屋形御伽ノ人アリシカ此事ヲ聞テ  
三好カラシ行フ御即位ハヲモシロシ南都  
ノ門主ノ屋形ヲ頼ンテ落下テ半俗ニ成リ  
下ヨリ將軍トアラカレニヨリアウレ押テ行  
ノ御即位ハウラヤマシクテノ笑タルヘキト  
イヘハ屋形聞テ一理ハヨシトテ笑玉フカ  
汝此將軍ノ天下ニ成ハ本朝ニハ不居大唐  
一渡ラシカトタワフシ玉フトナリ  
廿四日將軍近習計ヲ卒シ多賀社ニ社參アル

同日三月小  
朔日將軍觀音城ニ移玉ヒ兼禎父子近年屋  
形ト不和ノ様ニ聞啓ノヨシヲ仰テ細川兵  
部大輔藤孝ヲ以テ兼禎父子ヲ呼玉フ兼禎  
父子出仕アルニ將軍家ノ曰一家ノ内不和  
成ハ必他邦ヨリアナトラルノ端也義秀ト  
中和寮モ御珍重タルヘシトノ事ナリ兼禎父  
子仰ヲ兼テ曰吾父子ノ者共毛頭逆心ナシ  
當國ノ旗頭共息義彌ヲ惡ニ管領ニ逆心ノ

アルノヨシヲウツタヘテ候ナカラサリ去兼禎道ミチヲ守モツ  
テ候へハ角カク父子共ニワヒシメラレテ候トナリ  
將軍扱ハイキナキ事トテ屋形ト中和事ナ  
シトテ其義ヲヤメラルナリ

三日佐々木ササキ杜ノ祭礼サケアリ屋形并箕ミ作兼禎  
父子其外御一門ノ面々旗頭等ニ至ルマテ  
悉社コトウキヤセ參有テソノヤウタイ上下テツシ合テ目  
出度次第ナリ

同日將軍家遂ニ佐々木ノ祭礼照覽ノ義ナ

山トテ近習チカウジヲ召具メシグシテ御社參ナリ屋形不

斜喜悅カタキウキニテ將軍へ佐々木ノ龍尾ト云太刀  
ヲ進上ナリ

廿五日三好入道笑岩元來從四下行ニテ侍  
ルニ押テ官位ヲ奉望テ從三位中納言ニ成  
ルトナリ殊近年國々乱テ武家ノ官位皆已  
力儘ト成テ皇家ノ勅許ナキニ如此アサマ  
シキ事共ナリ甲州武田大膳大夫晴信モ先  
年ヨリ出家シテ自ラ法性院大僧正ニ成ル

上聞ユ日本開基アリテヨリ此方今世程官  
職ノ乱タル事ハナシト古老ノ真儒ハ云トナリ

四月小

十四日前將軍万松院殿ノ下戚腹ノ御若公  
ナリトテ山州西岡ヨリトリ出シテ馬渕刑  
部左衛門觀音城ニクシ奉テ來ル即矢嶋ノ御  
所ニ移シテ將軍家ト御一所ニヲキ奉ラル  
當年二歳ノ若公也名ヲ八國千世殿ト云矢  
嶋ノ御所还俗有テ程ナク君達ヲモウケ玉

トテ御大慶ナリト云

廿三日將軍家山門ニ上リ玉フ是ヒトヘニ天  
下草創ノタメニ彼山ヲ頼ミ玉フヘキトノ御  
下心ナリト云

五月大

五日佐々木御社祭礼例年ノ如シ屋形病氣  
依テ社參ノ義ナシ御代參ニ平井加賀守彼  
宮ニ向フ其御一門ノ面々不殘社參ス  
廿日越後國主長尾平入道謙信上洛スヘキ

ヨレニテ家礼宇佐美民部少輔ト云者ヲ江  
州ニ差越シ矢嶋ノ御所へ參ル將軍大悅スト云

六月小

廿三日將軍家石山ニ詣テ玉フニ條昭實公  
近衛晴嗣公京都ヨリ此事ヲ聞玉フテ石山  
ニ來テ將軍ト同船シテ矢嶋ニ來リ玉フテ  
廿九日マテ逗留ナリ此兩所ハ元來將軍家  
ト御千ナニフカキ御方ナルニ依テ如此ナ  
リト云

閏八七月小

日天下再  
三日夜子剋南方ニ星出ル光曜常ナラス  
十五日矢嶋ノ御所万松院ノ御爲ニ自ラ一  
部八卷ノ妙典ヲ書テ今日等持寺へ細川兵  
部大輔藤孝ヲ以テツカハサルトナリ  
廿八日將軍家箕作兼禎ノ城へ御移近習ノ  
面々不殘供奉ス今日三雲三郎左衛門右衛  
門督ニ諫言シテ曰是天ノ與ル處ナリ公義  
ヲ諒ント云義弼同心ナシト云事後ニ其沙



汰アリシナリ  
同日屋形ヨリ尾洲へ平井主膳正ヲツカハ  
サル密狀アリ不知甚將軍御歸洛ノ評義  
ナリト云

八月大潤小兩月一致

十四日雲州ノ臣子兵部少輔忠高龜井民部  
少輔永綱兩人江州ニ來テ屋形ニ扶助ヲ請  
右兩人五郎義清ノ流方屋形ノ族ナリト云  
潤八ノ廿五日天下再興ノ御爲トテ矢嶋ノ

御所御代々ノ御系圖ヲ書テ多賀社竹生嶋  
山王白鬚等へ奉納ラル日吉之社ニ納ルハ  
日野大納言之筆竹生嶋へ納ルハ藤宰相之  
筆白鬚社へ納ルハ徳大寺權大納言多賀ノ  
社ニ納メ玉フ一卷ハ將軍自筆ニ書寫シ玉フ  
右將軍納メ玉フ御系圖末世ノ爲ニ日記ニ  
ノス

當家足利系圖奉納多賀社事當人玉百  
有七代今上皇帝御宇既足利之正統欲

及斷絶ハニトクニ 予義昭ヨコシハラク 當此時甚欲立其功先祖コトトシニ 靈名記以納神社而所祈天下再興也イハレニ

人王五十六代 四品号桃園親王 鎮守將軍 始賜源姓  
 清和天皇 貞純親王 經基王 号六孫王  
 母皇太后明子

正西下右馬頭 才四將軍 伊豫守將軍 正西將軍 才五上式部大夫  
 浦仲 賴信 賴義 義家 義國

足利判官 於宇治川打死  
 義康 義房 義胤 桃井元祖

次田判官仁木細川元祖  
 義清 法樂寺 義氏 左馬頭

才四上総介 熱田大宮司  
 義兼 義純 岩松昌山祖 遠江守

吉良西條祖  
 長氏

尾張斯波祖  
 家氏

官内少輔吉祥寺

泰氏

平石殿

吉良東條祖

義繼

名五下 吉祥寺殿

頼氏

治部大輔

義顯

頼茂

義辨

公保

賢寶

基氏

覚海

名五下 報國寺

家持

伊豫守

澁川祖

石堂祖

上野祖

一色祖

小役祖

加子祖

名五下 淨妙寺

貞氏

讚岐守

伊賀守

家茂

伊豆守

頼方

安元祖

乾元祖

圓福寺左馬助

義高

征夷將軍贈左大臣  
足利中興等持院殿

尊氏

延文三年四月廿日卒  
行年五十四歲

名三征大猷寺

直義

道鑒

号日本將軍  
法名惠源

竹若丸

父尊氏謀反時浮嶋原討死

直冬

中圓武衛子孫ナリ

正二權大納言寶因院殿

義詮

延文三年十二月十八日任征夷將軍  
貞治六年十二月七日薨行年三十八歲

名三左馬頭瑞泉寺

基氏

貞治六年四月廿六日卒  
行年廿八歲  
關東公方元祖

左兵衛督末安寺

氏滿

佐々木大膳大夫  
女子滿高室

左兵佐

浦兼

勝光院

稻村殿

浦直

篠川殿

浦隆

御堂殿

浦李

女子

才五上

持仲

才三左兵督

持氏

長春院

永亨十一年二月十日

鎌倉於永安寺生害

上叔阿波守憲顯依姪心也

大若公 報國寺 自害

義久 父同

濃州於垂井金鐘寺九誅

春王丸

安王丸 兄同

成氏

四上左兵佐 亂草院又山昌公

成潤

大御堂早世

尊徹

雪下前主

守實

雪下殿

女子

上叔刑部少輔室

女子

依木進江守氏細室

政氏

左馬頭

高基

讚光院 高公方

晴氏 義氏

女子

依木進江守

高實

又下刑部大輔

女子

相馬室

三位大政大臣大將軍

義滿

應永十五年五月六日  
他界法名道義行年  
五十一歲号麻花院殿

四位内大臣將軍

義持

本義時  
正長元年正月十八日卒  
行年四十三歲  
号勝定院殿

五位内大臣將軍

義量

應永三十三年  
三月廿七卒十九歲  
号長得院殿

左中納言

滿詮

義運

義快

春王女

六位左大臣將軍

義教

嘉吉元年六月廿四日  
赤松滿祐逆心依生害  
善山普廣院殿

義嗣

林光院

梵修

香嚴院

女子

林山御酒式入

周喜

号吉山

女子

佐々木六角入道滿經室

七位右大臣早世將軍

義勝

嘉吉三年卒十歲

八位左大臣將軍

義政

東山殿  
延德二年正月七日卒  
号慈照院

九位右大臣將軍

義尚

正二位右大臣將軍  
号江公方  
舜光寺上人  
哥人

女子

十位大政大臣左馬頭將軍

義親

今川殿 大智院殿  
延德三五月十三日他界

十一位將軍本義材

義植

惠林院殿大永三年卒  
行年五十八歲

三左兵督 童勝院

二位 本義高

女子 斯波義名室

義澄 香嚴院还俗將軍 後法住院云

女子 佐々木大膳大夫高頼室 氏綱定頼等母

三位 權大納言

四位 左大臣

義晴

義輝

万松院殿 將軍

天文五年五月六日生 同十六年二月十七日 任征夷將軍 永祿八年為三好山城守 生害于時行年三十歲 号光源院殿

早世 竹王丸

村山御所屋上人

五位 大納言 將軍

女子

義昭

南都一乘院殿 还俗 後号靈陽院

十一日 將軍

周髡 為三好生害 康苑院門主

女子 近江三木義實室 義晴公嫡女也 義秀 義昌等母

女子 若狹武田義統室

右將軍御自筆ヲ深ラレテ天下再興ノ御祈

ニ四社ニ納メラル日吉白鬚竹生鳴多賀何

モ同事ナリ何ニ依テ天下再興ヲ祈リ玉フ

先祖ヲ改テ書寫シテ納メ祈ルト云事又聞

クニ御當家ノ中興尊氏卿天下草創ニ此例

アリトナリ依之今將軍如此ト云後世ノ夕  
又ニ將軍家ノ御代々庶流トテ一子ヲ不殘  
御本書ノコト夕日記ニト、ム

九月大

三日今日申日ニ依テ將軍家御立願ノ事  
アツテ日吉ノ社へ御社參近習ノ面々計供  
奉ス屋形ヨリ淺井下野守祐政ヲ差添ヘラル  
十四日將軍坂本ヨリ矢嶋ニ御歸座  
廿一日將軍家細川兵部大輔ヲ越後ノ長尾

平入道謙信方ヘツカハサル將軍ヨリ御書アリ

十月大

八月矢嶋御所ニヨイテ亥ノ子ノ御祝アリ  
代々公方家ノ御時ニハ其時ヲ取テ自ラ諸  
將ニ對面シテ其礼アリシヲ今將軍其例ニ  
テ辰時ヲ取行ナハルナリ

十一月大

四日上京焼失相國寺等悉ク炎上ス  
廿五日將軍家中野主膳正ヲ以テ山州北野

天神へ一首ノ御詠哥ヲ奉リ玉フ

天蒲ル神モソツト思ヒシレトカナラスシテタ、ヨヘル身ヲ

十二月小

十三日將軍ヲナクサメントテ屋敷江陽ノ若  
兵共ノ内尤四人ヲ以テ野須ニテクリ矢ノ  
御遊ヒアリ寒中殊ニ今日風立テ甚寒キニ  
ワサト屋敷若兵勇氣ヲタメシ見ラルト云  
廿三日屋敷將軍家へ虎ノ頭ト云名馬ヲ上  
リ玉フ是馬ハ京極長門守高吉ヨリ先年屋

形ニ献シタル名馬ナリ江東觀音寺ヨリ洛陽  
へ其日ニ行カヘリヲスルニアセヲセスト云ホ  
トノツヨ馬ナリ將軍大悦不斜其名ヲカヘ  
テ再興九ト号シ玉フナリ



永祿十<sub>丁卯</sub>年

正月大

朔日屋形并箕作殿其外御一門ノ面々旗頭  
等マテ不殘矢嶋ノ御所ニ出仕

二日旗頭等不殘觀音城出仕屋形諸將ニ命

シテ公義江州ニ御座ノ内ハ毎年二日ニ當

城ノ出仕ヲ可致ノヨシヲ仰出サル是ヒト

ヘニ義昭ノ御威光ヲ重クセニカタメノ屋形

ノ下心ナリト云

十日將軍家觀音城ニ移リ玉ヲ屋形一手的

ヲカマヘテ將軍家ヲナクサメラル

十五日將軍家江陽八幡へ社參屋形依病氣

社參ノ義ナシ

同日申剋屋形ノ御代參トシテ進藤山城守

八幡ニ社參ス

十六日天氣晴佐々木社へ屋形依病氣平井

加賀守ヲ御代參ニツカハサル

廿四日將軍家上野中務大夫ヲ以テ山州愛

岩山へ御代參上レテツカハサル甚天下再興  
ノ御祈ナリト云御願書公義御自筆ニテ被  
書封シコメラルニ依テ其御願文ヲ不知依テ  
不記

二月大

十一日屋形將軍家天下再興ノコトフキトテ  
老曾ニヲイテ犬追物アリ其品多キ事ニ依  
テ不記

廿三日將軍家屋形御同船ニテ竹生嶋ニ渡

海アル將軍家天女ノ御寶前ニテ天下再興  
ノ御祈アツテ御願成就ニヲイテハ毎年天  
女ヲ作テ奉リ宮中不殘金銀ヲ千リハメ悉  
ク造營アルヘキトノ御事ナリ

三月小

四月昨日大洪水ニテ佐々木ノ祭礼今日被  
行屋形并旗頭等不殘社參

十六日丹波住人野瀬大學助ト云者今日矢  
嶋御所ニ來テ將軍天下御再興ノ御合戦ニ

先馳ヲ仕ラント云テ一書ヲ細川ヲ以テ上聞  
ニ達ス將軍則對面アツテ吉兆ヲ云者也ト  
テ殊更ニ愛シ玉ヒ近習ノ内ニ召加フトナリ

四月小  
十一日和田了徳入道卒ス七十三和泉守等  
伯父ナリ江陽甲賀七人ノ内ナリ近年屋形  
ノ御伽ノ衆ニテアリ屋形此入道カタメニ  
甲賀郡ニ一宇ヲ建立シ了雲寺ト自ラ額ヲ  
ウタルスヘテ當屋形ハ忠義ヲ專ニ抽ンシ

シタル將ニハフカク後ニ至ルニテ其功ヲカニ  
シ其アトヲシタヒ玉フナリ

凡一日志賀郡カラサキノ一松一夜ノ内枝  
葉落テ如枯木甚不吉ナリト云屋形此事ヲ  
聞テ曰生スル者ハ必滅ス不珍トナリ

五月大

五日佐々木御祭礼例年ノコトシ今年ハ江  
北ノ渡し番ナリ京極淺井善ツクニ美ヲツクス  
同日京極ノ家人今村ト云者ト平井加賀守

カ家人ニ藤田十兵衛ト云者喧嘩ニ及ニテ  
神輿ノ前ニテキリムスヒテ神人ニキヅラ  
蒙ル者三人今日ノ喧嘩ハ例年ノ御定ニテ  
屋形其争ヒラ不聞是ニ依テ京極ト平井大  
キニ戦フ進藤山城守京極ヲヲサヘ山崎源  
太左衛門尉ハ平井ノヲサヘ雙方タカカハ  
世ス此事觀音城ヘ聞玉ヒテ京極平井閉門  
ナリ今日ノ喧嘩ニ雙方手負死人百四十三  
人ナリ

廿五日將軍家觀音城ニ御移リ有テ京極平  
井カ事ヲ被仰出ニ依テ屋形事故ナク兩人  
閉門ヲ免レ玉フテ今日兩方共ニ出仕ス屋形  
將軍ヲ重シ玉フ事甚フカシは無世ノ將軍  
ナレハ殊更ニ尚重シ玉フ故ナリト云

六月小

朔日ヨリ廿九日ニ至テ雨一滴モ不下五幾  
内疫病ハヤリ人民牛馬等ニ至ルニテ死事  
道路ヲフサク

今月十三日ヨリ矢嶋御所御不例依之京家  
ノ醫師道三ヲ江陽ニ呼下ス  
江陽ノ旗頭等五日替ニ矢嶋ノ番ヲツトム  
依不例御事也

七月小

四日今日ニ至テ雨不下公義御病氣少レ驗  
氣ニ付テ近習ノ面々ニ日替ノ御暇ヲ玉ル  
十五日今日午刻ヨリ戌刻ニ至テ洪水將軍  
家ノ御不例御驗氣ニテ醫師道三ニ御イト

マヲ玉ツテ上洛ス道三江陽ニ下ル事モフカ  
ク三好ヲハ、カルト云

八月大

四日關東ヨリ浮雲ト云術人上テ今日將軍  
家ノ矢嶋ノ御所ニ參テ種々ノ術ヲナス此  
事京極長門守高吉ヨリ屋敷ニ言上ス

五日屋敷矢嶋ノ御所ニ參ラル諫言アル其  
旨ハ何ソカヤウノ術人ナト召集メラレ月  
日ヲ送り玉フヘキ御事甚良將ノ世ナル事

也早ハヤ夕御追拂有へキトテ早速ハヤ浮雲ウキクモ江州ノ  
内ヲヲイ出サル

廿日上ヒト醍醐ヒノ炎上ヒノ雷火カミニテ色々イロ不思義ノ事

共多オホクト云記シニイトニナシ

廿四日住吉ノ社鳴動ノヨシカク皇家ニ奏ソウト云

九月小  
九日大津四位宮祭礼アリシ神人ト三井寺中

方ノ惡僧等ト口論ニ及ニテ四位宮ノ神人

等多死ス三井ノ惡僧猶張行シテ四位宮ノ

宮中ヲヤクノヨシ早馬ヲ以テ大津ノ奉行大

津主膳正兼俊カ方ヨリ觀音城へ言上ス

十六日今九日四位宮ノ祭礼ヲサニタケル

ニツサへ宮中ヲヤク三井ノ惡僧等スヘテ

四十五人其沙汰有テ柳崎ノ濱ニライテ誅戮ス

十月大

十日洛東大佛殿兵火ノ爲ニヤク是ハ三好

左京大夫義次カ勢大佛殿ニカクレ居テ夜

三好笑岩カ館へ通フテ討ント討ルノヨシ  
笑岩聞テ岩成主統助三百騎ニ馳向ヒ討之  
義次カ勢百騎討防キ戰テ終ニ殿ニ火ヲカ  
ケ悉ク自害スルトナリ并般若寺炎  
十四日平井加賀守澤田越後守兩人今日矢  
鳴御所當番ニテアリシカロ論シテ將軍家ノ  
御所大キニサワク進藤山城守此旨屋形ニ  
言上ス兩人閉門ヲ被仰付

十一月大

九日箕作ノ二男中勢大夫義久ト實名ヲ改  
メツク此事屋形聞テ大キニ怒テ曰當家義  
字ヲツク事將軍家ノ諱字ナリ何ノ御免ナ  
クシテ乱リニツカニコト甚家門ノ無礼ナリ  
改替スヘキノヨシ目加多攝津守ヲ以テ父兼  
禎へ被仰遺兼禎其事ヲ不知ノヨシヲ被申  
依之中勢大夫改カヘテ賢永ト号ス是ハ舍  
兄右衛門督ノ所行也ト云トカクシテ右衛  
門督ノ下心トケヤラスレテ三好笑岩ト一

味レテ矢嶋ノ御所ヲ討ニ謀ヲナストナリ

廿二日若州武田義統江東ニ來テ公義ヲ若

州へ移レ越前ノ國主カタライ北陸道ノ勢

ヲ集メテ三好退治ノ合戰ヲナスヘキヨレヲ

評義セラルトイヘトモ屋形合点ナシ

廿九日義統若州ニカヘラル

十二月小

十四日細川兵部大夫藤孝觀音城ニ來テ屋

形ニ向テ曰公義ヲ若州ニ移サレテ北陸道

ヲカタラヒ玉ヒテ可然ノヨレヲ申サル屋形  
兼引ナシ

十五日大雪下ル戌剋ニ地震

同日山形權内カ領ヨリ注進ス三好家河内

へ働タヘキノヨレ其沙汰アルノヨレヲイフ

廿五日南方雲間赤氣立ツ古老ノ知者是慶

雲ノ氣ナリト

廿六日矢嶋ノ御所ニテ近習ノ面々ニ受領

等ヲ被仰付將軍自ラ官位ヲマニスル事ハ



是始レメナリト云

光七日ヨリ晦日ニ至テ雪下ル江州北郡ニテ

一丈余ツモル二十年以前ニナシ

矢嶋御所并觀音城歳末ノ出仕去年ノ例ノ

コトレ記ニ不及

同日山嶽嶽内水邊...

十五日大雪...

...

江源武鑑卷第十二終



